

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算110号）
令和5年9月27日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



「三条の地域を学ぶ」

学校教育課 指導主事 新保 英穂

令和2年度、包丁の出荷額は、右の表のとおりです。
包丁三大産地「三条」を有する新潟県が、2位となっています。三条の高い技術力と、ブランド力が現れています。

毎年8月の初旬に開催している「三条学講座」の「包丁研ぎ講座」に参加しました。

包丁研ぎに準備した包丁は、私が大学入学時に両親から持たされたものです。現在も、カボチャやスイカなどの、

出典 (令和3年経済センサス (品目別統計表))

	R2 年度出荷額
1位 岐阜県	119.5 億円
2位 新潟県	64.5 億円
3位 大阪府	19.0 億円

硬い物や大きな物を切るときに時々使っています。
参加して強く感じたことは、「指導して下さった鍛冶道場の先生が親切だったこと」と「研ぎの難しさ」の2つです。先生はまずお手本でやって見せ、その後やらせてくれ、私の研ぎを先生が確認して「ここはこう！」とまた手本で研いでくれ、私に確認を求めました。先生の研ぎのビフォーとアフターを自分の指先の感覚で感じることができました。

荒砥石、中砥石、仕上げ砥石と進むうち、下手ながらもこんな感じになればよいという感覚が指先で分かるようになりました。

人から教わるのが刺激となり、リアルな指先感覚が記憶に残り、料理の楽しみも増す素敵な研修でした。また、鍛冶道場ではお住まいの地域にかかわらず、包丁研ぎ体験料大人1人1丁300円のところ、90円（なんと費用の7割は三条市の補助）で、包丁研ぎ体験ができるそうです。

すばらしい切れ味に驚きます。



セーフティアドベンチャー

7月28日(金)開催

今年度は三条嵐南学園を会場に実施し、38人の児童生徒が参加しました。参加者は防災に関する講話を聞いた後に5つのグループに分かれ、全部で5つのブースに参加しました。それぞれのブースでは、「避難時に何を持ち出せばよいか」、「避難所で熱中症を防ぐにはどうしたらよいか」、「ハザードマップはどのように見ればよいか」、「災害に対する食の備えはどのようにしたらよいか」、「避難所でハンディキャップを抱えた方にどのような支援ができるか」について、講話を聞いたり体験をしたりしました。

それぞれのブースで防災に関する防災食等のアイテムをもらい、それらの使い方についても学びました。



持ち出し品をカードゲームで考える



ハザードマップの見方について学ぶ



保温シートの説明

【参加児童生徒の感想】

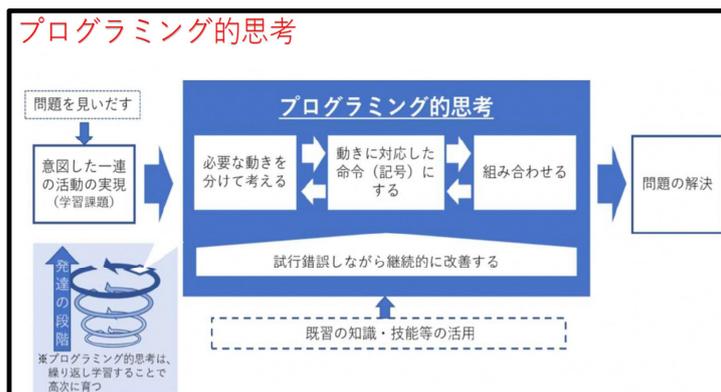
- ・何を持ち出すかを考えるときは、家族のことを考えなければいけないと思いました。(小4)
- ・車いすの体験をして、段差を上るのが難しいと分かりました。困っている人がいたら声をかけたいです。(小5)
- ・ハザードマップについて、家族でたまに話し合うことが大事だと思いました。(小6)
- ・災害時はスーパーの食品がなくなるため、常に非常食を3~4日分備えておくことが必要だとわかりました。(中2)

プログラミング研修

8月1日(火)開催

新潟市立亀田小学校 教頭 田辺和明 様を講師にお迎えし、オンラインで開催しました。田辺様からは、主に小学校に向けたプログラミング教育の基本的な考え方について御指導をいただきました。プログラミング的思考とはどのようなもので、どのように育成していけばよいかについて、具体的に示していただきました。「プログル」「スクラッチ」「マイクロビット」等を用いた具体的な実践事例の紹介もあり、実際にその場で体験をすることもできました。

参加者からは「プログラミング教育は様々な分野に応用可能だと分かった。どのようなことができるか、今後も考えて実践していきたい。」「大変勉強になった。2学期を迎えるのが楽しみになった。」といった前向きな感想が寄せられました。



WEBQU 研修② 8月8日(火)開催

県内でも数少ない認定WEBQU講師の三条市立第一中学校長 田村和弘 様 を講師に迎え開催しました。

今年度「Q-U」から「WEBQU」に変わり、規範意識や温かい人間関係に関する「安定度」に加え、個性の尊重や思考・感情の交流に関する「活性度」の両輪で学級を分析していくことが可能になったことを御指導いただきました。研修の中では演習として、「規範意識を高めるためにどのような取組をしているか」、「活性度を高めるために授業でどのようなことに取り組むか」について考え、情報交換を行いました。

教師の自己開示の重要性や、親和型学級をどのように形成し、維持していくかなど、有益な情報が多く、充実の研修となりました。



受講者の感想 (一部抜粋)

- ・とても素晴らしい研修だったので、ぜひ校内で共有したいのですが、夏休みに入ってからすぐにWEBQU分析研修を行ってしまいました。忙しい時期でしょうが1学期中にこの研修があると、伝達講習後に各学級が分析できて良いと感じました。
- ・学級学年経営の充実で最大の働き方改革を！というお言葉、心にしみました。ありがとうございました。

特別支援教育「関係機関との連携研修」 8月9日(水)開催

支援を要する子どもたちと関係する機関との連携について、子育て支援課職員を講師として研修を実施しました。子どもたちが放課後や長期休業中に利用する「放課後等デイサービス」や福祉サービス、三条市独自の「子ども・若者総合サポートシステム」の概要や中学校卒業後のサポートなどについて学ぶ機会になりました。

後半は、栄庁舎3階にある子ども発達ルーム（児童発達支援事業）の施設を実際に見学しながら、就学前の子どもたちを対象とした指導内容や教材等について研修しました。参加者からは、「三条市内の制度や教育機関との連携について知る機会がなかったので良い機会になった。」、「子ども発達ルームを見ることができ、説明を聞いたり、質問したりできてとても良かった。」などの感想が寄せられました。



わくわく科学フェスティバル

8月21日(月)開催

わくわく科学フェスティバルは、子どもたちが、自然の不思議に触れたり、科学の実験や工作を行ったりする場を提供して、自然事象や科学現象への興味・関心と探究心を高めることをねらいとしています。三条市科学教育推進事業実行委員会の主催四事業（わくわく科学フェスティバル、科学・模型工作教室、科学教室、科学ゼミナール）の一つです。

ここ数年は、感染症予防のため、中止や参加対象を小学校高学年に絞るなど、規模を縮小して実施してきましたが、今年度は、市内の全児童生徒に案内を配布しました。



ブースは、市内近隣の大学や高専、高等学校、中等教育学校、市内中学校、NPO 法人や企業など 14 団体の協力で、「投げたらもどってくるブーメランを作ろう」「わくわく金魚エレベーターを作ろう」「コンクリートでキーホルダー作り」「パスタタワーの高さを競おう」など、興味をそそる 16 の観察、実験、体験、そして工作の場を用意できました。

ブースでの子どもたちへの指導者として、第一中学校と大崎学園の約 20 人の生徒が参加し、フェスティバルを盛り上げてくれ、また、30 人の市内教職員からブースの運営や児童生徒の安全管理に協力していただきました。

これらの皆さんのお陰で、当日は、来場の児童・生徒、保護者約 600 人、出展関係者や支援者を含めると 700 人を超え、子どもたちの笑顔が会場全体にあふれる賑わいのあるフェスティバルとなりました。

アンケートでは、「とても面白かった」が 88%、「まあまあ面白かった」が 11%と、肯定的な評価は 99%でした。

「体験したものはすべて楽しめた。」「分かりやすく教えてもらってとてもよかった。」という感想がほとんどでした。科学にかかわる興味を高める楽しい場となり、ねらいが達成できました。

